資料２

夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案） 概要版

背景と目的

夢見ヶ崎動物公園（以下、「夢見」という。）は、昭和25（1950）年開園、昭和47（1972）年に動物の飼育・展示を開始した、広場、動物、植物、古墳などの歴史資源を有する地区公園です。
平成30（2018）年3月に「夢見ヶ崎動物公園基本計画」を定めましたが、その後の様々な社会変容を受け、令和4（2022）年8月に「夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方」を定めて再整備の内容を見直し、市民の意見聴取、民間事業者との対話を重ね、令和6（2024）年度に「夢見ヶ崎動物公園再整備計画骨子」を決定しました。
本計画は、これを踏襲しながら、動物公園としての役割を改めて見直し、施設の配置や、より具体的な整備内容、中長期的な視点も踏まえた事業推進や管理運営の手法などについて示しています。

計画の位置付け

■上位関連計画

本計画は関連計画・法令との整合を図りながら策定します。

- 川崎市総合計画
- 川崎市みどりの将来像
- 川崎市緑の基本計画

↕

夢見ヶ崎動物公園再整備計画
・整備方針
・整備内容
・スケジュール、事業費

夢見ヶ崎動物公園基本計画（H30）
・将来像、コンセプト等

夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方（R4）
・整備の考え方の整理

↔

その他関連計画等
・希少野生動植物種保存基本方針（環境省）
・神奈川県鳥獣保護管理事業計画
・川崎市文化財保存活用地域計画
・新・かわさき観光振興プラン
・生物多様性かわさき戦略
・川崎市環境教育・学習アクションプログラム
・川崎市民間活用（川崎版PPP）推進方針
・パークマネジメント推進方針
・資産マネジメント方針

主な関係法令
・都市公園法
・獣医療法
・動物愛護管理法
・種の保存法
・鳥獣保護法
・地域生物多様性増進法　等

対象区域

本計画は、民有地などを除く、夢見全体を対象区域（6.6ha）とします。

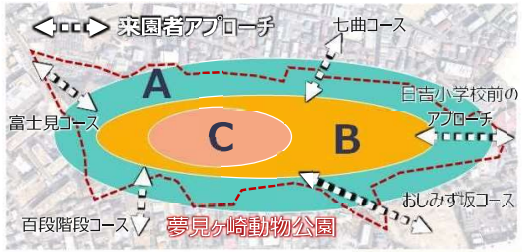
計画期間

再整備計画の対象期間は、計画策定から**概ね10年**としますが、飼育動物の寿命などを鑑み柔軟に対応する必要があります。

現況・周辺状況

夢見の立地特性・概況

標高35mの丘陵地(加瀬山)に立地し、平坦な市街地に浮かび上がる緑の島のような姿で、**里山樹林・公園・動物園の3つのエリアで構成され**、多様な特性を有しています。**市内で唯一の動物公園**であるとともに、古墳など歴史資源を有し、お花見・散策・遠足・地域の行事など四季を通じて幅広く利用されています。



- ・標高35mの丘陵地
- ・まとまった緑
- ・市内唯一の動物公園
- ・鳥獣保護区に指定
- ・四季折々の自然
- ・富士見デッキからの眺望
- ・幸区市民健康の森に指定
- ・古墳、戦没者慰霊塔など歴史資源
- ・敷地内の社寺などと共存

里山樹林エリア
A　加瀬山の豊かな樹林地 など

公園エリア
B　加瀬山上部の平坦部
交流・レクリエーション・散歩 など

動物園エリア
C　動物と出会える空間

概要

所在地　：幸区南加瀬1-2-1
公園面積：6.6ha
公園種別：地区公園
開園日　：昭和25(1950)年4月1日
動物展示開始：昭和47(1972)年11月22日
展示動物：51種279点(令和７年12月末時点)
入園料　：無料

連携協働の取組

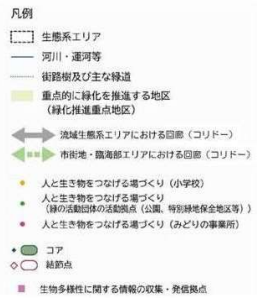
サポーターやボランティアの方々、教育機関など多様な主体と連携した取組を行っており、活動のフィールドとして利用しています。

多様な主体との連携協働

教育機関などとの連携

生物多様性かわさき戦略での位置付け

市街地・臨海部エリアにおける回廊(コリドー)における拠点(コア)であり、生物多様性に関する情報の収集・発信拠点としての役割も担っています。

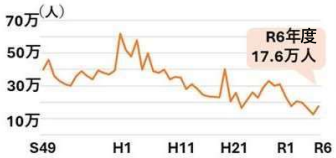


夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案） 概要版

来園者数・収支状況

ピーク時(昭和63（1988）年)の来園者数は60万人を超えていましたが、近年は10～20万人程度で推移しています。春(3～5月)及び秋(9～11月)に来園者数が増加する傾向にあります。

■来園者数の推移



園内に社寺などの民有地や５箇所の出入り口があり、動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯があります。過去５年間(令和2（2020）年度～令和6（2024）年度)の平均収入額は一時使用料などにより約16万4千円であり、また、支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約１億9千5百万円となっています。

夢見ヶ崎動物公園の課題

公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、気候変動への対応が必要となっています。

●社会変容による市民ニーズ等の変化

新型コロナウイルス感染症による影響、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まり、アニマルウェルフェア※に対する意識の高まりなど

●施設の老朽化や不足による課題（部分的に先行整備を実施）

園内のバリアフリー化の不足／動物展示の魅力低下／アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の整備が不十分／駐輪場や駐車場の検討不足　など

先行整備をした
パークセンター

動物舎の老朽化

●サービス面の課題

※アニマルウェルフェア：飼育および展示における個々の動物の身体的および心理的状態のことをいう。

「教育・環境教育」「レクリエーション」に関する公益的なサービスの不足／地域との協働のポテンシャルを活かしたイベントやプログラムの不足／加瀬山の様々な文化財の保存、活用と魅力発信事業の不足

●持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

コレクションプラン等の充実が必要／飼育のノウハウの継承が不十分/持続可能な管理運営のための財源確保の課題など

再整備の基本的な考え方

「いのちを感じる」夢見ヶ崎動物公園

平成30（2018）年　夢見ヶ崎動物公園基本計画
「わくわく　ふれあい　みんなでつくる動物公園」

令和4（2022）年
夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方

令和5（2023）年～令和６（2024）年
夢見ヶ崎動物公園再整備骨子　**「いのちを守る」「いのちの体感」「いのちへの共感」**

夢見は目指すべき将来像「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」を踏まえ、**市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう再整備を実施**します。

- 地球環境を大切にする行動へつながる
- 自然や環境を自分ごととして考えるきっかけ
- 自分や他者を大切にする気持ちを育てる

加瀬山に存在する自然・歴史・動物の**多彩ないのち**を加瀬山全体として体感できる**施設整備と運営管理を実現**

再整備により "都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場" としての動物公園を創造します。

基本方針❶ 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

基本方針❷ 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

基本方針❸ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

加瀬山が持つ、ここにしかない「いのちを感じる」資源のエリアごとの整理

基本方針❶ 里山樹林エリア

- 土地の記憶から**自然の営みを実感**
- 樹林に暮らす**動物・鳥類・昆虫**
- **生きものとの共存を考える機会**
- 身近な**鳥獣保護区が住民の誇りにつながる**

基本方針❷ 公園エリア

- 世代の異なる**人々との関わり**
- **健康づくりや生きがい**創出
- 伝統や文化など**人の営みを実感**
- **歴史と平和の大切さ**を伝える

基本方針❸ 動物園エリア

- **気軽に飼育員さん、園長さんに出会える**環境
- **動物のリハビリを知り、関われる**
- 都市の中で、**様々な動物と出会える**
- **いつでも、何度でも、ゆっくり、じっくり**いのちと向き合える

夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案） 概要版

再整備の基本的な考え方

３つの基本方針に基づき、五感を使った「いのちを感じる」プログラムを展開しやすい環境をつくります。

基本方針❶ 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と
人の営みを体感できる

里山樹林エリア

いのちを育む加瀬山の緑に親しむ

協働による樹林管理活動

発生材を活用した解説板

整備イメージ

- 市民協働による樹林地管理の活動を支える施設や休憩場所を設置
- 日常的な散歩・散策で自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものと出会える安全管理や地域の憩いの空間づくり
- 活動で発生した自然資源を活用し、樹林に息づく生きものや取組を紹介できる解説板

基本方針❷ 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、
協調・協働するすべを考えられる

公園エリア

いのちを大切にする行動につながる

パークセンターの地域活用

子ども達が集う遊具

整備イメージ

- 来園者や動物が公園内を安全に散歩できる園路、夏の暑熱環境に対応した休憩所などの施設整備
- 顔となる遊具などを中心として自然と人が集まってくる柔軟な遊びの空間
- 市民や企業からの意見や寄付を反映した施設整備
- 広場やパークセンターは夢見の取組の発信や地域との関わりづくりなどに活用が可能な空間とする

基本方針❸ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの
尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

動物園エリア

いのちの鼓動に心が動く

いのちを伝えるサインの工夫

いのちを守る取組を
身近に感じる施設

整備イメージ

- 触るだけではない「ふれあい」を提供する、アニマルウエルフェアを遵守した動物展示、動物や生息環境の情報発信の充実
- バックヤードの整備や暑熱対策など、働く環境の充実
- ゆっくり観察ができ、居心地よく利便性のある空間づくり
- 調理場やリハビリ施設の一部を見学できる、いのちを守る取組を身近に感じる施設を設置

■「いのちを感じる」プログラムの例

**加瀬山の自然を
五感で感じる**

自然の心地良さを五感で感じ、自然の大切さ、保全の重要性を学ぶ

みる きく かぐ 味 ふれる

樹林ボランティア(夢見)

**加瀬山のいのちの
歩みとは？**

今いる生きもの、昔いた生きものなどを知り、歴史と自然にふれる

みる きく ふれる

昆虫教室(広島緑化センター)

**動物の得意！
を披露
見て・聴いて驚き、
感動する**

- 人と関りが深いロバが人と一緒に歩く様子を観察
- 鳥の羽や羽ばたきを観察
- 動物を観察し、動きや習性に驚き、学ぶ

みる きく

ロバの散歩（京都市動物園）

みる きく

バードショー
（松江フォーゲルパーク）

**食べることは
生きること！**

- エサの準備のお手伝い
- 食べ物やうんちの違いからいのちを感じる

みる かぐ 味

エサづくり体験（市川市動植物園）

**いのちを守る
最前線を見学**

- 野生保護鳥獣の観察
- 職場見学
- 自分にできることを考える

みる

保護鳥獣の観察
（猛禽類医学研究所）

夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案） 概要版

全体の空間構成と施設配置計画

現状の空間構成を活かすことで、樹林など環境への負担や造成など**整備の負担を軽減**します。

里山樹林エリア　緑と人が出会う

樹林や地域の生きものを観察・実感できる

【再整備を検討する主な施設】
- Ⓐ 樹林管理の拠点
- Ⓑ 階段・散策路
- Ⓑ 児童公園
- Ⓒ 駐車場

里山体験教室のイメージ

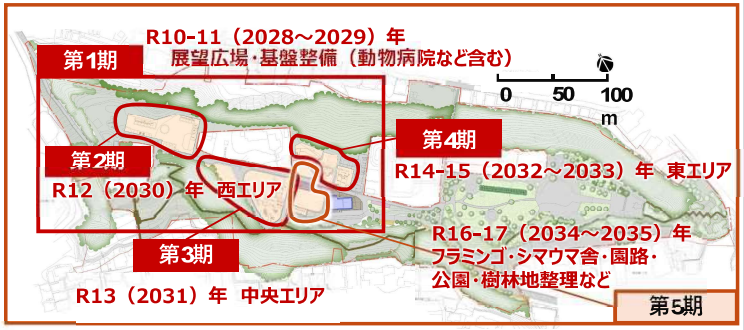
公園エリア　人と人が出会う

家族と、友人と、地域の人と交流する

【再整備を検討する主な施設】
- Ⓓ「う回路」入口・パークセンター南側
- Ⓔ 駐車場からの入口
- Ⓕ 展望広場
- Ⓖ エントランスのロータリー
- Ⓗ 慰霊塔付近
- Ⓘ 芝生広場
- Ⓙ 慰霊塔前広場

遊具配置のイメージ

■第１～５期　段階整備の計画



植栽

- **既存の緑陰を活かし**ながら**剪定を実施**
- 施設や公園利用の支障となる樹木を**適切な位置に更新**
- 樹林管理活動で出た発生材の**有効活用の検討**

動線

- 通過、散策と"たまり場"の**バランスに配慮**
- **安全に楽しみながら歩ける舗装**の整備
- 災害時などにおける緊急車両、避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

動物園エリア　生きものと人が出会う

動物園の動物たちと出会い・学び・楽しみ・驚く

【再整備を検討する主な施設】
- Ⓚ 広場、動物展示、動物病院、調理場、隔離室など

動物病院イメージ

動物舎イメージ

Ⓕ憩いの拠点

- 富士山、街の**眺望**
- シンボル的なデザインの**トイレ**や**ゲート**、休みたくなる**休憩施設**

富士見デッキの眺望
（夢見）

Ⓓ交流の拠点

ワクワク感を演出するサイン、公園エリアから動物園エリアへの誘導**サインや案内板**

動物モチーフのサイン
（のんほいぱーく）

エントランスの演出
（盛岡市動物公園）

Ⓙにぎわいの拠点

遊びやイベントなどの利便性向上のための**園路や休憩施設**

キッチンカーの出店
（夢見）

芝生広場
（夢見）

公園全体

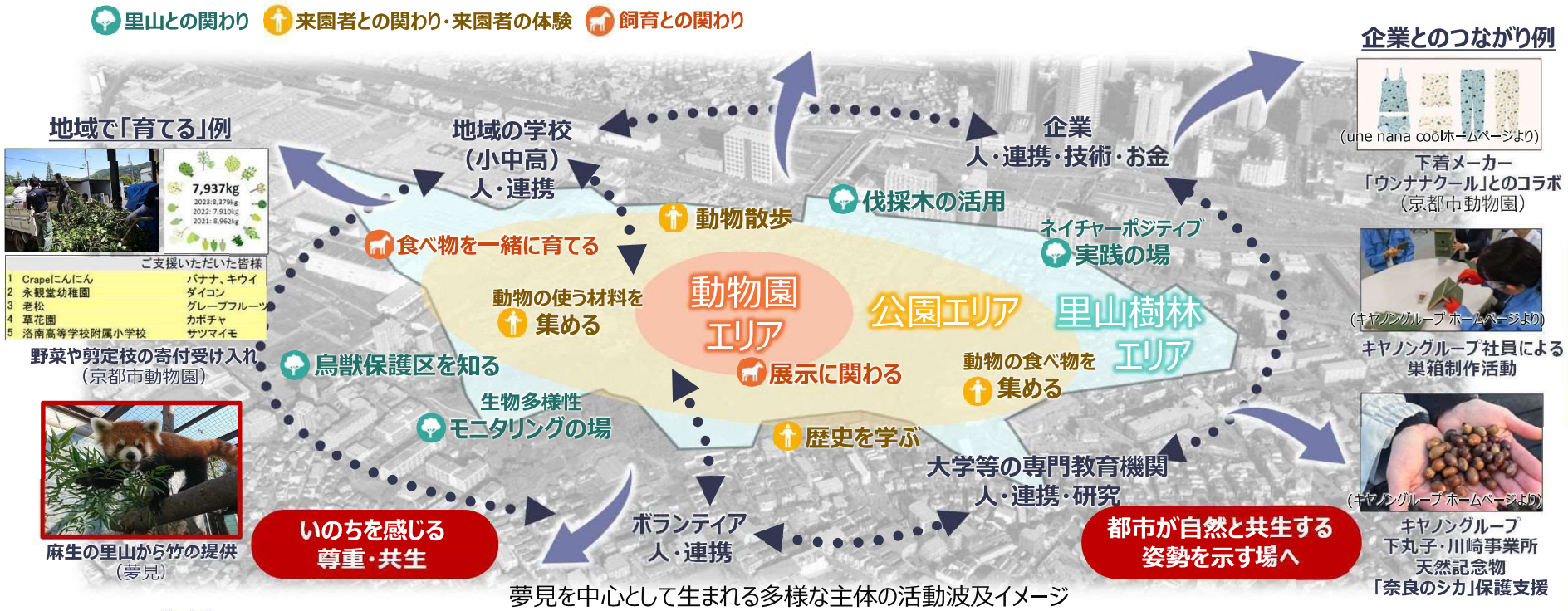
- 園内に散在する**歴史的資源**や**加瀬山の自然の保全**
- 各所に動物・昆虫などのイラスト、樹林管理の**発生材を活用した作品**などを設置

発生材アート作品
（吉野ヶ里遺跡）

夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案） 概要版

地域への波及イメージ

再整備で強化する「いのちを感じる」しかけが、夢見から地域を巡り、多様な主体とそれぞれの資源・得意分野で育ち、良い効果が波及していくことを目指します。再整備にあたっては、協賛や技術提供、実験的な取組を通じて、地域とのつながりを深め、広げながら市民・企業・大学と共に新しい夢見を育てていきます。また、環境や社会貢献のメッセージを発信する場として機能し、都市が自然と共生する姿勢を示す場として地域や来園者に新しい価値を提供します。



夢見を中心として生まれる多様な主体の活動波及イメージ

地域とのつながり例

※赤枠：既に夢見で取組が始まっています。

慶應義塾大学大学院
ワークショップ（夢見）

近隣企業による地域
貢献活動（夢見）

東京農業大学による
保護鳥獣研究（夢見）

川崎総合科学高校による
展示の協力（夢見）

加瀬山の会の門松作成
（夢見）

動物公園内の循環の例

園内の樹木の葉で
巣作り（夢見）

果樹の栽培
（渋川動物公園）

来園者からの
ドングリの寄付
（大宮公園小動物園）

夢見ヶ崎動物公園再整備計画（案） 概要版

コレクションプランの考え方

現飼育個体については継続して飼育していくこととし、飼育環境の充実や、五感を活用した体験プログラムなどを可能とするため、飼育動物の繁殖・調整を進め、将来的に計34種（＋α）を継続して飼育する方針とします（現飼育個体の令和17（2035）年度における自然減想定は約46種）。また、動物園としての魅力向上や来園者ニーズへの対応、公益社団法人日本動物園水族館協会（以下「JAZA」）コレクションプラン掲載種など、国内の園館で種の保存や飼育展示が求められる種は、今後も新たな種の導入を継続的に検討していきます。

	考え方		動物園としての役割・取組内容など	動物種の例
飼育継続	• 絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより**種の保存・生物多様性の実現に貢献する種** • 近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより**環境教育へ寄与する種** • 人気種等**市民ニーズの高い種**	種の保存・野生生物保全調査・研究 教育・環境教育レクリエーション	• 種の保存への貢献その他これまでの実績などを勘案し、**積極的に個体の導入・繁殖に取り組み飼育を継続**する • 状況に応じて**個体の導入・繁殖を検討しながら飼育を継続**する 川崎市環境教育・学習アクションプログラムなどへの貢献 生物多様性かわさき戦略などへの貢献 【34種】	シセンレッサーパンダ 幅広い世代に人気の動物 環境教育等にも有効 EN JSMP フンボルトペンギン ペアでの子育て・群れでの行動等教育的効果 VU JSMP パラワンコクジャク JAZAにおける国内血統登録担当動物園として他園館と連携 VU JSB ホンドタヌキ 里山管理、野生動物との関わり方の学習
新規導入	• 魅力増進に対応する種	情操教育、環境教育など	【＋α】	
現飼育個体をもって飼育終了	• **繁殖や新規導入が困難な種** • 他の希少種などとの飼育スペースなどの調整のため**繁殖を行わない種** • **外来種、特定外来生物など**飼育種としての**定着を想定しない種**	—	• 種の保存や個体の状況などを勘案し、他の飼育継続する種の飼育スペース確保のため**繁殖させず終生飼養**する • 園内で繁殖ができず、国内の他園館からの導入も困難な種（血統が近い個体しかいない・個体数が少ないなど）は**現個体の終生飼養後に飼育を終了**する • **飼育終了までアニマルウェルフェアに配慮し、健全な飼育・展示環境の維持向上に努める** • **外来種、特定外来種等は飼育種としての定着を想定しない**	アカオヒメシャクケイ 国内で飼育されているのが全てオスであり、メスの導入ができない クモザル 現個体は（亜種不明のため）繁殖・搬出不可であり獣舎スペース等の問題から調整とする

※国際自然保護連盟（IUCN）レッドリスト分類（絶滅の危険性）
EN ＝危機
VU ＝危急

※JAZAコレクションプラン指定種
JSMP ＝管理種
JSB ＝登録種

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況などを踏まえ必要に応じて柔軟に見直します。

コレクションプラン

コレクションプランの考え方により夢見で飼育管理する種を①推進種②維持種③調整種④対象外の４つのカテゴリーに分類します。このコレクションプランに加えて、夢見の魅力増進に対応するための新たな種の導入については継続的に検討します。夢見の「いのちをまもる」取組の一つに、野生傷病鳥獣の保護活動があります。地域に住む野生動物を知り、人と野生動物との関り方を改めて来園者に考えていただくために、飼育の継続が必要であると判断し、再整備計画骨子からの更新として、野生保護種であるホンドタヌキ、オオタカなどの一部を「対象外」から「推進種」「維持種」に変更しました。（コレクションプランは本編巻末参照）

概算事業費

計画期間の概算事業費は、次のとおりです。

■全体概算事業費

項目	適用	金額（億円）
獣舎	レッサーパンダ舎・ペンギン舎・サル舎・インコ舎・小動物舎等	28.2
バックヤード	動物病院・動物隔離施設・調理室等	6.9
広場と遊具	遊具・休憩施設・芝生・小公園等	3.0
利便施設	トイレ	0.5
全体	園路・給排水・電気・埋蔵文化財調査・撤去費等	14.6
総額（消費税込み）		53.2億円

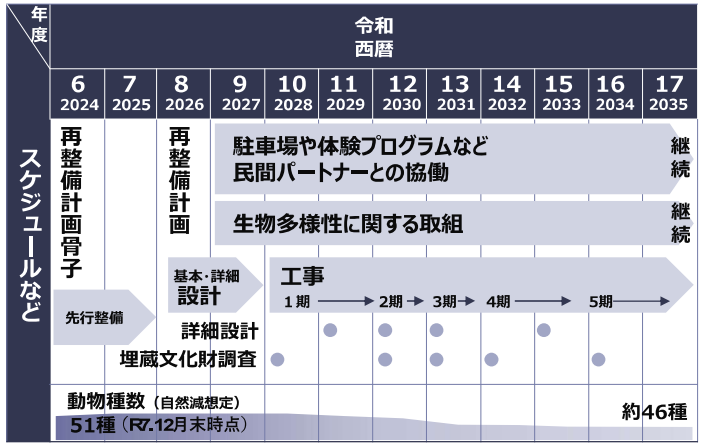
※物価水準の変動などにより変更が生じる場合があります。

事業手法・運営手法

• 飼育動物を移動させながら行う段階的整備が必要となり一括発注の効果が限定的となること、動物舎等の特殊性から民間活用によるコスト・工期の削減も期待できないことから、市内事業者の参画が見込まれ、地域経済活性化にも寄与できる設計・施工分離発注方式により整備を実施します。

• 運営については分野ごとにヒアリングや検討を行い、運営手法の考え方を整理した結果、**飼育業務は行政が主導的に実施し、各種プログラムの実施、駐車場などは民間パートナーとの協働により充実**していきます。

■民間事業者との連携範囲

スケジュール

再整備計画を令和8（2026）年5月に策定し、整備に向けた基本設計などを進め、**令和10（2028）年度から飼育動物を移動させながら、段階的に改修整備を進め**ます。